

前回本誌で大腸の生検が取り上げられたのは9巻2号(1974年)であり、食道生検と併せての企画であった。全大腸から生検が採れる、といった内容であり、12年後の今回は炎症だけにしぼっても、量的に相当増えたものになった。

個人的には大腸炎の診断に生検が果たして必要かどうか以前より疑問を抱いていて、その解決に立ち向かったつもりであるが(潰瘍性大腸炎)、対象が巨きすぎることあって無難なものにおさまったような気がする。Crohn病に関しては浜田論文で肉芽腫の採取部位、出現率について現時点の結論としうるデータが得られたと思う。急性腸炎については疾患の性格上生検による follow は

書きづらい点もあったと思うが、力作が得られた。ただし腸アメーバ症の論文では残念ながら生検にはあまり触れられていなかった。

炎症性疾患の内視鏡・生検は、各内視鏡医の考え方・経験によってそれぞれ異なった立場があるのは当然である。それは書く側にも、読む側にも言えることであり、本号の各論文および座談会も、特定の人の特定の主張と考え、批判しながら自由な立場で読んでいただき、結論は各自で出していいただければ十分である。炎症性疾患の診断には、結論のない楽しみ、というものがあるからである。

胃と腸

7月号(第21巻・第7号)予告

発売予定 7月2日
定 価 1,700円

主題／脾の嚢胞性疾患—その診断の進歩

主 題	脾の嚢胞性疾患の分類と背景病変……………	癌研・外科	高木 国夫・他
	脾の嚢胞性疾患の診断—USを中心に……………	千葉大・1内	税所 宏光・他
	脾の嚢胞性疾患の診断—CTを中心に……………	京大・1外	宮下 正・他
	脾の嚢胞性疾患の診断—ERCPを中心に……………	名大・2内	山雄 健次・他
	粘液産生癌……………	癌研・内科	大橋 計彦・他
	脾の solid and cystic acinoma cell tumor (SCAT) —特にその組織発生についての考察……………	浜松医大・1病理	喜納 勇・他
	脾の嚢胞性疾患の治療方針……………	山口大・1内	竹本 忠良・他
今月の症例	脾の嚢胞性疾患……………	昭和大・内科	藤 田 力 也
初心者講座	早期胃癌の見つけ方(7)……………	仙台市医療センター	望月 福治・他
カンファレンス	この症例をどう考えるか……………	大阪市大・1内	小林 絢三・他

(編集頁の都合で掲載論文が若干変更になることがあります。)

胃と腸(第21巻 第6号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 椿 孝雄

〒113-91 東京都文京区本郷 5-24-3

☎ 受付台 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5714

販売部直通 (03) 817-5659

1986年6月25日発行(毎月25日発行)

1部定価1,700円(配送料80円)

年ぎめ予約購読料19,080円(送料弊社負担)

FAX (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693 番

印 刷 所 永和印刷(株) ☎ (03) 813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 814-5711

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1986, Printed in Japan.

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。

(担当) 窪田・長谷川・大竹